

西条酒蔵地区伝統的建造物群保存対策調査中間報告

1 趣 旨：平成30年度から開始した西条酒蔵地区伝統的建造物群保存対策調査の第1次調査（外観調査）が終了したことから、その調査内容及び成果について、市民に向けて報告する。

2 日時等：平成31年2月19日（火）18：00～
東広島芸術文化ホールくらら 3Fサロンホール

3 報告項目

- (1) 調査事業の概要について 生涯学習部文化課
- (2) 1次調査の成果について 広島大学大学院工学研究科 水田丞 助教

4 1次調査の概要

- (1) 期 間 平成30年11月～平成31年1月
- (2) 対象者 約31ha、500件
- (3) 手 法 広島大学に委託し、広島県建築士協会会員の協力により、大学と建築士が戸別訪問
- (4) 結 果 概ね50年以上経過している建物 240棟
このうち、2次調査〔詳細調査〕の対象 160棟

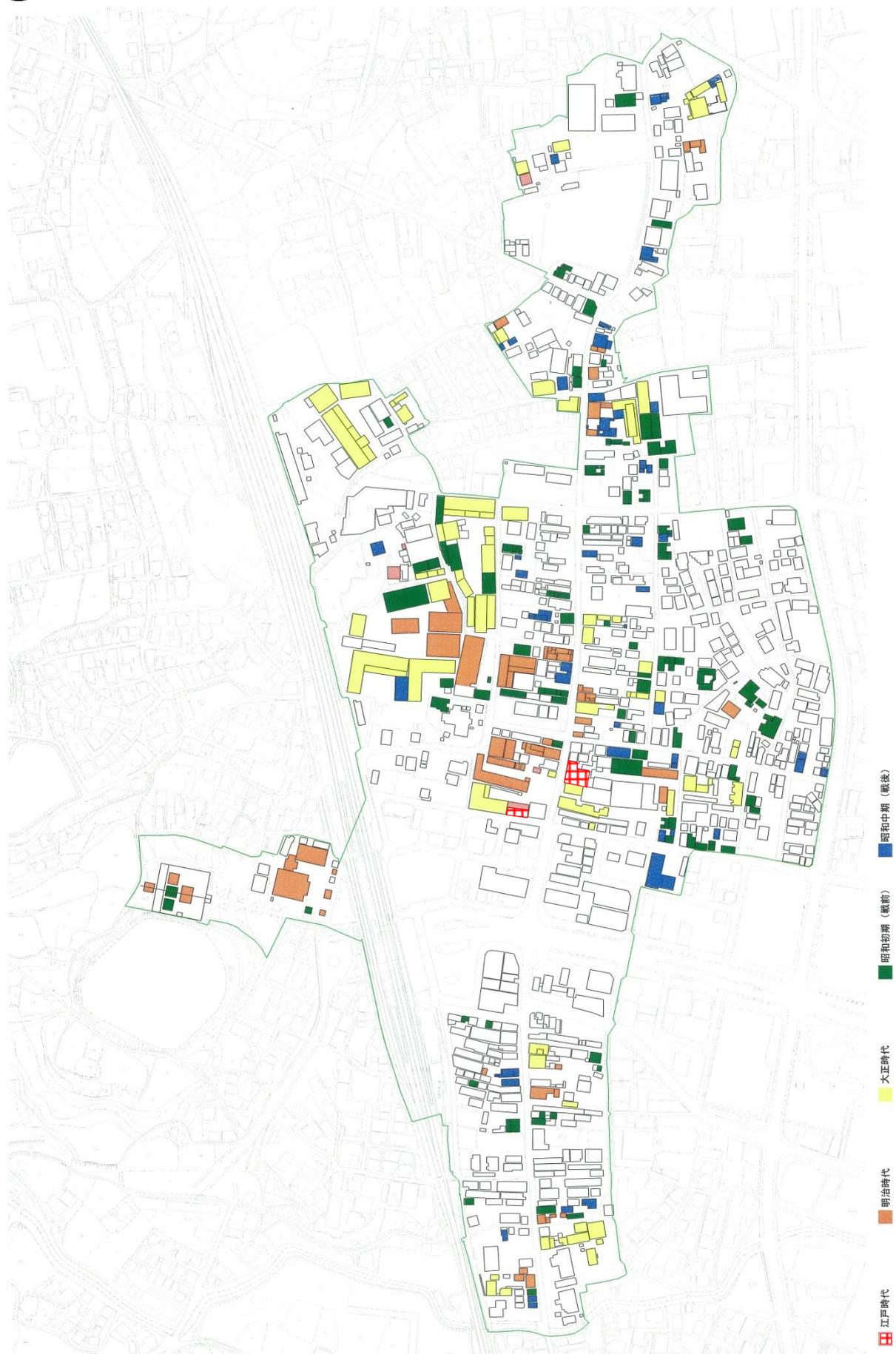
2次調査対象の選定基準

- ・ 保存状態の良いもの
- ・ 町並みの景観上重要な建造物
- ・ 西条の建築の歴史を知るうえで重要と考えられるもの

5 報告資料

- ① 1次調査によって明らかになった築50年以上の建造物の分布
- ② 製作後50年以上経過した工作物分布図
- ③ 宿場町時代から残る地割の分布及び概要
- ④ 2次調査の概要例（高知県安芸市 土居廓中）

① 築後 50 年以上経過した建造物分布図



② 製作後 50 年以上経過した工作物分布図



④ 2次調査（詳細調査）のサンプル（高知県安芸市 土居廓中）

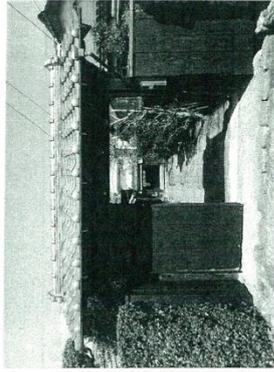


写真6-37 家門(4)

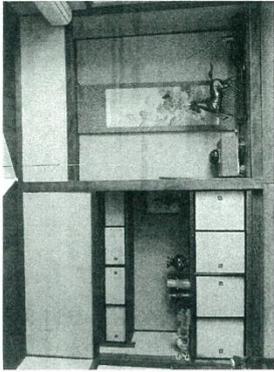


写真6-36 主屋床の間

オモテ座敷には長押が付かず、質素な造りとなっている。南の縁側部分は近年改修されて内縁となっている。縁側と座敷の間の垂れ壁に兩戸鴨居の痕跡があることからも当初は切縁であったと思われる。また和釘を打った金具も見られる。便所は縁を通して西端に配置しており五藤家本家と共通している。南西に一部張り出した浴室、外便所部分は近年増改築されたものである。

2. 納屋

桁行2間半、梁間2間半、切妻造棧瓦葺き平屋建て。西に半間強の下屋を設けている。

3. 物置

敷地西の境界に接して塀を兼ねた物置があり、北西隅にある納屋へとつながっている。

4. 家門

桁行1間半、切妻造棧瓦葺き。

5. 南中門

桁行1間、切妻造棧瓦葺きで、家門から続く板扉に続き設けられている。アプローチと南庭との出入口口になっている。

6. 北中門

桁行1間、切妻造棧瓦葺き。家門に平行してアプローチ北に設けている。

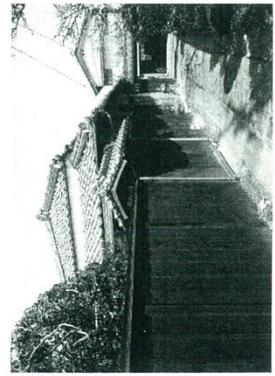


写真6-35 家門から玄関へアプローチ左手は南中門(6) 正面は北中門(5)

調査番号一5 E家

番号	名称	建築年代	1階床面積 ㎡	2階床面積 ㎡	延べ面積 ㎡
1	主屋	幕末	104.74	-	104.74
2	納屋	明治後期	30.90	-	30.9
3	物置	昭和戦前	14.66	-	14.66
4	家門	幕末	2.82m	-	0
5	南中門	幕末	1.54m	-	0
6	北中門	幕末	1.92m	-	0

現在地には、正徳4年(1714)小牧岡右衛門、明和4年(1767)野村貞助上り屋敷、文久4年(1862)野村謙太と幕末まで歴代格の屋敷があった。現当主家は五藤家の分家で、初代為重の三男久右衛門を祖とし、元禄10年(1697)騎馬30石となり、宝暦3年(1753)藤尾姓となるが、のち復姓する。江戸中期以降幕末まで南町東端に屋敷があり、明治になってから現在地に移った。元は家が東端にあつたため、かつては「大東」と呼ばれており、家に残るモロブタなどの話遣いにも「大東」と墨書されている。今残る建物は、様式からみて建築年代は藩政末期ではないかと推測される。その後一部増築、改修をしながら現在に至っている。茶の間の東の部屋は、後に板の間に改修されて子供部屋として使われているが、当初は4帖半の間と北に奥行半間の靴脱ぎの土間があり、家人の出入りとして使っていた。この4帖半の間は玄関とは襖で仕切られた続き間となっていた。また、当初のチャノマについても台所とながる土間と3帖であったが、後に生活の変化にあわせて改修され、土間は床張りとなっている。

1. 主屋

桁行5間半、梁間6間、寄棟造棧瓦葺き平屋建て。間取は基本の田の字形式に、更に北へ二間が付いた形式である。南の縁側に面して6帖のオモテ座敷と長4帖の座敷、北に4帖半の玄関間と4帖半の座敷の構成である。その北側に板の間、6帖のチャノマ、台所を設けている。

